石井洋二郎先生
業　績　一　覧
（2016 年 12 月現在）

A.　単著書（教科書・参考書類を除く）

1）『差異と欲望――ブルデュー『ディスタンクシオン』を読む』，藤原書店，1993 年 11 月，364 p.

2）『パリ――都市の記憶を探る』，ちくま新書，1997 年 8 月，238 p.

3）『身体小説論――漱石，谷崎，太宰』，藤原書店，1998 年 12 月，354 p.

4）『文学の思考――サント＝ブーヴからブルデューまで』，東京大学出版会，2000 年 2 月，209 p.

5）『美の思索――生きられた時空への旅』，新書館，2004 年 11 月，269 p.

6）『毒書案内――人生を狂わせる読んではいけない本』，飛鳥新社，2005 年 12 月，200 p.

7）『ロートレアモン　越境と創造』，筑摩書房，2008 年 10 月，592 p＋viii p.（東京大学大学院総合文化研究科博士学位論文，平成 20 年度第 59 回芸術選奨文部科学大臣賞）

8）『科学から空想へ――よみがえるフーリエ』，藤原書店，2009 年 4 月，358 p.

9）『異郷の誘惑――旅するフランス作家たち』，東京大学出版会，2009 年 6 月，342 p.

10）『フランス的思考――野生の思考者たちの系譜』，中公新書，2010 年 12 月，242 p.

11）『告白的読書論』，中公文庫，2013 年 1 月，285 p.

B.　共著書・共編著書

1）『文化の権力――反射するブルデュー』，宮島喬と共編著，藤原書店，2003 年 1 月，385 p. 編集，「プロローグ」（pp. 1–7）及び「速度と身体――ブルデューへのオマージュとして漱石を読む」（pp. 233–261）を執筆.

2）『フランス文学』，渡邊守章・柏倉康夫と共編著，放送大学教育振興会，2003 年 3 月，466 p. 編集，第 1 章「フランス語の文学とは――一つの見取図」（pp. 11–26），第 6 章「古典主義の文学（3）――小説とモラリスト」（pp. 163–178），第 9 章「近代性の文学（1）――詩の近代」（pp. 217–234），第 10 章「近代性の文学（2）――小説の時代」（pp. 235–250）を執筆.

3）*Maldoror hier et aujourd'hui*, *Lautréamont: du romantisme à la modernité*, Cahiers Lautréamont LXIII–LXIV, Actes du Sixième Colloque international sur Lautréamont, Tokyo, 4–6 2002, Hidehiro Tachibana と共編著，Du Lérot, juillet 2003, 374 p. 編集，« Avant-propos »（p. 7）及び « La poétique de la verticalité chez Lautréamont »（pp. 361–368）を執筆.

4）『フランスとその〈外部〉』，工藤庸子と共編著，東京大学出版会，2004 年 7 月，287 p. 編集，「はじめに」（pp. i–vii）及び「不在の母語――モンテビデオ人としてのロートレアモン」（pp. 239–258）を執筆.

5）『大人になるためのリベラルアーツ　思考演習 12 題』，藤垣裕子との共著，東京大学出版会，

2016 年 2 月，295 p. 全体の約 2 分の 1 を執筆.

C.　分担執筆

1）『大学改革とは何か——大学人からの報告と提言』，藤原書店，1993 年 7 月，290 p. 阿部照男他 4 名との討論.

2）『大学改革最前線——改革現場と授業現場』，藤原書店編集部編，藤原書店，1995 年 12 月，421 p.「東京大学（教養学部）——カリキュラム改革のその後」（pp. 250–267）を分担執筆.

3）『地中海——終末論の誘惑』，蓮實重彦・山内昌之編，東京大学出版会，1996 年 9 月，240 p.「終末の太陽——二篇のフランス小説をめぐって」（pp. 210–223）を分担執筆.

4）『歴史のなかの開発』，「開発と文化」第 2 巻，川田順造他編，岩波書店，1997 年 11 月，256 p.「思想としての開発」（pp. 29–46）を分担執筆.

5）『ワールド・ミステリー・ツアー　サーティーン』，第 3 巻「パリ編」，同朋社，1998 年 8 月，220 p.「パリの処刑広場を巡る」（pp. 89–104）を分担執筆.

6）*Les Lecteurs de Lautréamont*, Cahiers Lautréamont XLVII et XLVIII, Du Lérot, 1999 年 7 月，510 p. « Lautréamont lu par les Japonais »（pp. 299–305）を分担執筆.

7）『教養のためのブックガイド』，小林康夫・山本泰編，東京大学出版会，2005 年 3 月，245 p.「読んではいけない本 15 冊」（pp. 203–216）を分担執筆.

8）『都市と旅』，工藤庸子・池上俊一編，放送大学教育振興会，2005 年 3 月，302 p.「パリと鉄道」（pp. 29–47）及び「旅する詩人たち」（pp. 198–215）を分担執筆.

9）*La Littérature Maldoror*, Actes du Septième Colloque international sur Lautréamont, *Cahiers Lautréamont*, livraisons LXXI et LXXII, Du Lérot, juillet 2005, 333 p. « Le Corps de Maldoror »（pp. 59–64）を分担執筆.

10）『身体のフランス文学』，吉田城・田口紀子編，京都大学学術出版会，2006 年 11 月，402 p.「フランス文学と身体——「食」の主題系をめぐって」（pp. 1–21）及び「唇・皺・傷——マルドロールの〈身体なき器官〉」（pp. 165–181, D–25 の再録）を分担執筆.

11）『高校生のための東大授業ライブ　純情編』，東京大学教養学部編，東京大学出版会，2010 年 3 月，223 p.「『星の王子さま』と外国語の世界——文化の三角測量」（pp. 32–48）を分担執筆.

12）『ろうそくの炎がささやく言葉』，管啓次郎・野崎歓編，勁草書房，2011 年 8 月，201 p.「文字たちの輪舞」（pp. 64–69）を分担執筆 .

13）『東大教師が新入生にすすめる本』，東京大学出版会『UP』編集部編，東京大学出版会，2012 年 4 月，273 p.「『オリエンタリズム』エドワード・W・サイード」（p. 9）を分担執筆.

14）『東大教師　青春の一冊』，東京大学新聞社編，信山社，2013 年 3 月，283 p.「『ツァラトゥストラ（上・下）』」（pp. 230–232）を分担執筆.

15）『高校生のための東大授業ライブ——学問への招待』，東京大学教養学部編，東京大学出版

会，2015 年 7 月，256 p.「はじめに――「学ぶ」ことから「問う」ことへ」（pp. i–ii）を執筆.

16）『「反知性主義」に陥らないための必読書 70 冊』，文藝春秋社，2015 年 10 月，217 p.「『春と修羅』宮沢賢治」（pp. 21–23, E–126 の再録）を分担執筆.

17）『文学の再生へ――野間宏から現代を読む』，紅野謙介・富岡幸一郎編，藤原書店，2015 年 11 月，784 p.「野間宏と「顔」」（pp. 539–554, D–26 の再録）を分担執筆.

18）『高校生のための東大授業ライブ――学問からの挑戦』，東京大学教養学部編，東京大学出版会，2015 年 12 月，256 p.「はじめに――誰もがみな研究者」（pp.i–ii）を執筆.

19）『東京大学「教養学部報」精選集』，東京大学教養学部教養学部報編集委員会編，東京大学出版会，2016 年 4 月，208 p.「はじめに――言の葉の舞う散歩道」（pp. 1–2）及び「鉛筆の書き込み――図書館という書物の森」（pp. 205–206, E–89 の再録）を分担執筆.

D. 論文

1）« Le Problème de l'énonciateur dans *Les Chants de Maldoror* de Lautréamont », パリ第 4 大学修士学位論文，1978 年 11 月，108 p.

2）「『マルドロールの歌』における言表者の問題」，東京大学大学院人文科学研究科仏語仏文学専攻修士学位論文，1980 年 3 月，287 p.

3）「『マルドロールの歌』における液体の機能（一）」，『東京大学教養学部外国語科研究紀要』第 28 巻第 2 号，1981 年 1 月，pp. 85–106.

4）「『マルドロールの歌』における液体の機能（二）」，『東京大学教養学部外国語科研究紀要』第 29 巻第 2 号，1982 年 3 月，pp. 15–35.

5）« La Structure de l'énonciation dans *Les Chants de Maldoror* de Lautréamont », *Études de Langue et Littérature Françaises*, No 40, 日本フランス語フランス文学会，1982 年 3 月，pp. 77–97.

6）「ロートレアモンと「場」としての海」，『人文』第 31 集，京都大学教養部，1985 年 3 月，pp. 204–258.

7）「ロートレアモンにおける自然界の水の諸相」，『人文』第 32 集，京都大学教養部，1986 年 3 月，pp. 134–171.

8）「「マルドロールの第四の歌」におけるテクストの多層化――第 2 ストロフ分析」，『フランス語フランス文学研究』，No. 49，1986 年 10 月，pp. 64–74.

9）「トリスタン・コルビエールにおける両義性の問題」，『東京大学教養学部外国語科研究紀要』第 35 巻第 2 号，1987 年 12 月，pp. 13–42.

10）« La Structure de l'énonciation dans *Les Chants de Maldoror* de Lautréamont », *Les Valenciennes*, No. 13, « Malédiction ou Révolution poétique: Lautréamont / Rimbaud », 1990, pp. 81–96（D–5 の再録）.

11）« La soif lautréamontienne et la soif rimbaldienne », *Amis d'Auberge verte*, *Etudes rimbaldiennes*, Soong-sil University Presse, 1991 年 7 月，pp. 201–217.

12）「文学を再ー開する」，『大航海』No. 5，新書館，1995 年 8 月，pp. 42–47.
13）「象徴権力への意志――ニーチェとブルデュー」，『大航海』No. 12，新書館，1996 年 9 月，pp. 106–113.
14）「丸山眞男「である」ことと丸山眞男「になる」こと」，『大航海』No. 18，新書館，1997 年 9 月，pp. 52–60.
15）「ピエール・ブルデュー」，『大航海』No. 28，新書館，1999 年 5 月，pp. 92–97.
16）「象徴空間としてのパリ――壁の消長をめぐって」，『NIRA 政策研究』，総合研究開発機構，1999 年 10 月，p. 13–16.
17）「アラン・コルバン――心性史から身体史へ」，『大航海』No. 34，新書館，2000 年 6 月，pp. 90–97.
18）「他者としての日本語――翻訳する主体」，『環』4 号，藤原書店，2001 年 1 月，pp. 210–215.
19）「マイカルチャー・ショック」，『大航海』No. 38，新書館，2001 年 3 月，pp. 116–125.
20）« La réception de Bourdieu au Japon »，『Odysseus』第 6 号，東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要，2002 年 2 月，pp. 98–107.
21）「マルドロールの身体」，『現代詩手帖 2003　March』，思潮社，2003 年 3 月，pp. 44–51.
22）「誤読の領分」，『文学』7・8 月号，岩波書店，2003 年 7 月，pp. 177–187.
23）「2003 年のロストボール――文学と速度」，『環』15 号，藤原書店，2003 年 10 月，pp. 147–154.
24）「可能なかぎり多くの味わい――ロラン・バルトのコレージュ・ド・フランス講義ノートをめぐって」，『ユリイカ』総特集ロラン・バルト，臨時増刊号，2003 年 12 月，pp. 171–181.
25）「唇・皺・傷――マルドロールの〈身体なき器官〉」，『フランス文学における身体――その意識と表現』，科学研究費補助金研究成果報告書，2005 年 3 月，pp. 3–14.
26）「野間宏と〈顔〉――『暗い絵』をめぐって」，『野間宏の会会報』，No. 12，野間宏の会，2005 年 4 月，pp. 9–28.
27）「右往左往する一寸法師」，『国文学 3 月号　漱石　世界文明と漱石』，学燈社，2006 年 2 月，pp. 108–118.
28）「変容するパリと文学の風景――ボードレールとロートレアモンの場合」，『フランス第二帝政下における都市の変容と文学・芸術』，科学研究費補助金研究成果報告書，2006 年 3 月，pp. 71–80.
29）「ニート・遊歩者・ボヘミアン」，『大航海』No. 58，新書館，2006 年 3 月，pp. 89–97.
30）「「空想い」する人々：科学から空想へ――フーリエとその精神的系譜（1）」，『環』25 号，藤原書店，2006 年 4 月，pp. 388–399.
31）「協同体と情念引力：科学から空想へ――フーリエとその精神的系譜（2）」，『環』26 号，藤原書店，2006 年 8 月，pp. 274–285.
32）「地球の生涯をめぐって：科学から空想へ――フーリエとその精神的系譜（3）」，『環』27 号，藤原書店，2006 年 11 月，pp. 270–281.

33）「呼びかけるテクスト：科学から空想へ――フーリエとその精神的系譜 (4)」，『環』28 号，藤原書店，2007 年 3 月，pp. 327–339.

34）「オーウェンとフーリエ：科学から空想へ――フーリエとその精神的系譜 (5)」，『環』29 号，藤原書店，2007 年 4 月，pp. 397–409.

35）「フーリエの夢想都市：科学から空想へ――フーリエとその精神的系譜 (6)」，『環』30 号，2007 年 7 月，pp. 386–398.

36）「ピエール・ブルデューと知識人の物語」，『神奈川大学評論』第 57 号，2007 年 7 月，p. 47–56.

37）「近代日本の西洋文学者たち」，『大航海』，新書館，2007 年 10 月，pp. 119–125.

38）「恋愛のポリティクス：科学から空想へ――フーリエとその精神的系譜 (7)」，『環』31 号，2007 年 11 月，pp. 368–379.

39）「自己反省性の歴史学」，『大航海』No. 65，2007 年 12 月，pp. 156–159.

40）「美食学の誕生：科学から空想へ――フーリエとその精神的系譜 (8)」，『環』32 号，2008 年 3 月，pp. 276–287.

41）「真理から遠く離れて――イジドール・デュカス『ポエジー』を読む」，『Odysseus』12 号，2008 年 3 月，pp. 41–63.

42）「拡散する波動――フーリエを読む作家たち：科学から空想へ――フーリエとその精神的系譜 (9)」，『環』33 号，2008 年 5 月，pp. 276–293.

43）「パサージュの思考――フーリエとベンヤミン：科学から空想へ――フーリエとその精神的系譜 (10)」，『環』34 号，2008 年 7 月，pp. 278–291.

44）「変革への意志――フーリエとブルトン：科学から空想へ――フーリエとその精神的系譜 (11)」，『環』35 号，2008 年 10 月，pp. 300–315.

45）「快楽の言語――フーリエとバルト：科学から空想へ――フーリエとその精神的系譜 (12)」，『環』36 号，2009 年 1 月，pp. 288–303.

46）「夭折者たちのニヒリズム」，『大航海』No. 71，2009 年 6 月，pp. 98–105.

47）「改革――大学のハビトゥス」，『環』38 号，2009 年 7 月，pp. 78–81.

48）「パリの悪童：ナダール 時代を「写した」男 (1)」，『環』54 号，2013 年 7 月，88p–101 p.

49）「ジャーナリズムの青春：ナダール　時代を「写した」男 (2)」，『環』55 号，藤原書店，2013 年 10 月，pp. 298–314.

50）「文学と政治のはざまで：ナダール 時代を「写した」男 (3)」，『環』，56 号，藤原書店，2014 年 1 月，pp. 360–377.

51）「カリカチュアの方へ：ナダール　時代を「写した」男 (4)」，『環』57 号，藤原書店，2014 年 4 月，pp. 364–384.

52）「パンテオン・ナダール：ナダール　時代を「写した」男 (5)」，『環』58 号，藤原書店，2014 年 7 月，p. 316–338.

53) 「肖像写真家としての出発：ナダール　時代を「写した」男 (6)」，『環』59 号，藤原書店，2014 年 10 月，pp. 408–428.

54) 「兄弟の確執：ナダール　時代を「写した」男 (7)」，『環』60 号，藤原書店，2015 年 1 月，pp. 316–333.

55) 「名士たちの饗宴：ナダール　時代を「写した」男 (8)」，『環』61 号，藤原書店，2015 年 5 月，pp. 82–100.

56) 「思想の言葉──芸術のような学問」，『思想』，岩波書店，2016 年 9 月，pp. 2–6.

E.　エッセイ，書評，記事等 (ページ数省略)

1) 「エッセイ風フランス語会話」，『基礎フランス語』，三修社，1986 年 4 月–1987 年 3 月，計 12 回連載.

2) 「時事フランス語を読む」，『ふらんす』，白水社，1986 年 4 月–1987 年 3 月，計 12 回連載.

3) 「フランス詩における〈気〉の描写」，『CEL』第 4 号，大阪ガス　エネルギー・文化研究所，1987 年 11 月.

4) 「見出だされた顔──ロートレアモンの肖像写真をめぐって」，『流域』第 23 号，青山社，1988 年 2 月.

5) 「「ディスタンクシオン」の構造」，『新評論』No. 59，1988 年 6 月.

6) 「風の誘惑」，『CEL』第 8 号，大阪ガス　エネルギー・文化研究所，1988 年 11 月.

7) 「卓越化のメカニズム──『ディスタンクシオン』について　その一」，『新評論』No. 64，1988 年 12 月.

8) 「ハビトゥスの構造──『ディスタンクシオン』について　その二」，『新評論』No. 65，1989 年 2 月.

9) 「タルブの月」，『CEL』第 9 号，大阪ガス　エネルギー・文化研究所，1989 年 2 月.

10) 「慣習行動の創造性──『ディスタンクシオン』について　その三」，『新評論』No. 66，1989 年 3 月.

11) 「言葉遊び／賭け言葉」，『CEL』第 13 号，大阪ガス　エネルギー・文化研究所，1990 年 4 月.

12) 「初級講座　フランス語へのいざない」，『ふらんす』，白水社，1990 年 4 月–1991 年 3 月，計 12 回連載.

13) 「眩暈と劇場」(1)〜(4)，『Temps d'or』1〜4，1990 年 12 月–1991 年 9 月，計 4 回連載.

14) 「遊戯の時間」，『遊』，近畿しんきんクレジットサービス，1991 年 4 月.

15) 「『ディスタンクシオン』と日本」，『Nouvelles』，No. 56，日仏会館・日仏協会，1991 年 7 月.

16) 「聴覚のイマージュ」，『ANEMOS』第 4 号，長谷工コーポレーション総合研究所，1991 年 10 月.

17) 「忘れがたい風景」，『青淵』，渋沢青淵記念財団竜門社，1992 年 1 月.

18）「職業再生産と文化資本」，『学士会会報』No. 795，1992 年 4 月．
19）「喜びの詩」，『CEL』第 19 号，大阪ガス　エネルギー・文化研究所，1992 年 5 月．
20）「怒りの劇」，『CEL』第 20 号，大阪ガス　エネルギー・文化研究所，1992 年 7 月．
21）「哀しみの歌」，『CEL』第 21 号，大阪ガス　エネルギー・文化研究所，1992 年 9 月．
22）「新しい「文学社会学」の試み」，『機』No. 20，藤原書店，1992 年 10 月．
23）「楽しみの物語」，『CEL』第 22 号，大阪ガス　エネルギー・文化研究所，1992 年 11 月．
24）「『ディスタンクシオン』を読む――ブルデューと私（上）」，『機』No. 30，藤原書店，1993 年 9 月．
25）「ブルデューを訪ねて――ブルデューと私（中）」，『機』No. 31，藤原書店，1993 年 10 月．
26）「ブルデューへの負債――ブルデューと私（下）」，『機』No. 32，藤原書店，1993 年 11 月．
27）「貧困の言葉」，『新潮』6 月号，1994 年 6 月．
28）「ブルデューの今日的意義」，『読売新聞』，1994 年 9 月 16 日．
29）「「文芸批評」から「作品科学」へ」，『機』No. 45，藤原書店，1995 年 1 月．
30）「広がりゆく外国語の宇宙」，『言語』7 月号，大修館，1995 年 6 月．
31）「現代フランス文学の可能性――「文学場」をめぐって（上）」，『機』No. 53，藤原書店，1995 年 10 月．
32）「日本の文壇と「文学場」――「文学場」をめぐって（中）」，『機』No. 54，藤原書店，1995 年 11 月．
33）「世界の「知識人場」に向けて――「文学場」をめぐって（下）」，『機』No. 55，藤原書店，1995 年 12 月．
34）「端数のない世界」，『ジュール・ルナール全集月報』，臨川書店，1995 年 12 月．
35）「現代思想としてのブルデュー社会学」，『教養学部報』402 号，東京大学教養学部，1996 年 5 月．
36）「ロートレアモンの新しさ」，『読売新聞』，1997 年 2 月 4 日．
37）「事件・表象・言説」，『機』No. 71，藤原書店，1997 年 5 月．
38）「パリの魅惑」，『ちくま』No. 319，筑摩書房，1997 年 9 月．
39）「脱出と越境の道程描くル・クレジオの新作」，「海外の文学」，『毎日新聞』，1997 年 9 月 24 日．
40）「知の越境者，セールの新作」，「海外の文学」，『毎日新聞』，1997 年 11 月 19 日．
41）「戦争体験が透けて見えるシモンの大作」，「海外の文学」，『毎日新聞』，1998 年 1 月 28 日．
42）「何重もの自己同一性の揺らぎ」，「海外の文学」，『毎日新聞』，1998 年 4 月 8 日．
43）「歴史記述の本質問う」，「海外の文学」，『毎日新聞』，1998 年 6 月 17 日．
44）「文学的・思想的彷徨の軌跡」，「海外の文学」，『毎日新聞』，1998 年 8 月 19 日．
45）「ナゾの詩人の詳細な伝記」，「海外の文学」，『毎日新聞』，1998 年 10 月 28 日．
46）「問われる「知識人と大衆」――ブルデュー批判をめぐって」，『毎日新聞』，1998 年 11 月 10

日.
47) 「「身体小説」を読む試み」,『機』No. 88, 藤原書店, 1998 年 12 月.
48) 「4 人の女性たちの心理ドラマ」,「海外の文学」,『毎日新聞』, 1999 年 1 月 13 日.
49) 「丁寧に仏訳された谷崎文学」,「海外の文学」,『毎日新聞』, 1999 年 3 月 17 日.
50) 「テクストから作品へ」,「海外の文学」,『毎日新聞』, 1999 年 5 月 26 日.
51) 「無名の 3 人の少女」,「海外の文学」,『毎日新聞』, 1999 年 7 月 28 日.
52) 「書評: 柏木隆雄著『イメージの狩人　評伝ジュール・ルナール』(臨川書店)」,『ふらんす』, 白水社, 1999 年 8 月.
53) 「生涯を回顧するサガン」,「海外の文学」,『毎日新聞』, 1999 年 10 月 6 日.
54) 「ロートレアモン――都市生活者の幻想」,『週刊朝日百科　世界の文学 17』, 朝日新聞社, 1999 年 11 月.
55) 「作家の円熟示す緊密な構成」,「海外の文学」,『毎日新聞』, 1999 年 12 月 15 日.
56) 「カミュとアルジェリア」,「海外の文学」,『毎日新聞』, 2000 年 3 月 2 日.
57) 「異国体験を通した「自画像」」,「海外の文学」,『毎日新聞』, 2000 年 5 月 11 日.
58) 「出会いから再会まで」,『UP』333 号, 東京大学出版会, 2000 年 7 月.
59) 「ランボーにも女性の影」,「海外の文学」,『毎日新聞』, 2000 年 7 月 13 日.
60) 「サン＝テグジュペリの姉の手記」,「海外の文学」,『毎日新聞』, 2000 年 9 月 28 日.
61) 「兌換言語から不換言語へ」,『環』3 号, 藤原書店, 2000 年 10 月.
62) 「バルザックの「つまらなさ」?」,『機』No. 109, 藤原書店, 2000 年 11 月.
63) 「静物画を描くマネ」,「地球はまわる」,『毎日新聞』, 2000 年 12 月 14 日.
64) 「下降線たどるクラシック CD」,「地球はまわる」,『毎日新聞』, 2001 年 3 月 1 日.
65) 「眩暈への誘い」,『ちくま』No. 361, 筑摩書房, 2001 年 4 月.
66) 「改装なったギメ美術館」,「地球はまわる」,『毎日新聞』, 2001 年 5 月 17 日.
67) 「伝統劇団の総支配人交代」,「地球はまわる」,『毎日新聞』, 2001 年 7 月 19 日.
68) 「ラカンの強烈な影響力」,「地球はまわる」,『毎日新聞』, 2001 年 9 月 27 日.
69) 「シテ島から世界都市へ」,『週刊朝日百科』, 朝日新聞社, 2001 年 11 月.
70) 「注目されるリュファンの活躍」,「地球はまわる」,『毎日新聞』, 2001 年 11 月 29 日.
71) 「ロートレアモンへの誘い――新訳全集を刊行して」,『教養学部報』453 号, 東京大学教養学部, 2002 年 1 月.
72) 「ピエール・ブルデュー氏を悼む」,『読売新聞』, 2002 年 1 月 29 日.
73) 「パンテオン入りするデュマ」,「地球はまわる」,『毎日新聞』, 2002 年 2 月 14 日.
74) 「文化的存在を示したイベント」,「地球はまわる」,『毎日新聞』, 2002 年 4 月 25 日.
75) 「ブルデューとロートレアモン」,『大航海』No. 43, 新書館, 2002 年 6 月.
76) 「ブルデューを「追悼」する」,『機』No. 127, 藤原書店, 2002 年 6 月.
77) 「バレエを大衆娯楽に」,「地球はまわる」,『毎日新聞』, 2002 年 6 月 27 日.

78）「オルセーの新しい顔」，「地球はまわる」，『毎日新聞』，2002 年 9 月 12 日．
79）「今年のゴンクール賞作品」，「地球はまわる」，『毎日新聞』，2002 年 11 月 21 日．
80）「謎の詩人をめぐる討議――ロートレアモン・シンポジウム報告」，『機』No. 134，藤原書店，2003 年 2 月．
81）「書評：酒井健著『絵画と現代思想』（新書館）」，『日本経済新聞』2003 年 12 月 14 日．
82）「〈外部〉をめぐる問い」，『UP』382 号，東京大学出版会，2004 年 8 月．
83）「「美」という出来事」，『大航海』No. 53，新書館，2005 年 1 月．
84）「解説――意志的な夭折」，原口統三『定本　二十歳のエチュード』解説，ちくま文庫，2005 年 6 月．
85）「書評：二宮宏之著『マルク・ブロックを読む』（岩波書店）」，『ふらんす』，白水社，2005 年 7 月．
86）「「自分語り」，あるいは一貫性の欠如について」，『アルゴ』16 号，東京大学教養学部地域文化研究学科フランス分科，2006 年 4 月．
87）「書評：アゴタ・クリストフ著『文盲』（白水社）」，『文学界』，文藝春秋社，2006 年 4 月．
88）「吉田城さんのこと」，『仏文研究　吉田城先生追悼特別号（In memoriam Jo Yoshida）』，京都大学フランス語フランス文学研究会，2006 年 6 月．
89）「鉛筆の書き込み――図書館という書物の森」，『東京大学教養学部報』505 号，2007 年 10 月．
90）「小人の戯言」，『Gallia XLVII 号（柏木隆雄教授退職記念号）』，大阪大学フランス語フランス文学会，2008 年 3 月．
91）「駒場図書館案内」，『教養学部報』510 号，東京大学教養学部，2008 年 4 月．
92）「「テクストへの回帰」の果敢な実践」，書評：HARA（Taichi），*Lautréamont vers l’autre*, L’Harmattan, 2006,『Chaiers』01，日本フランス語フランス文学会，2008 年 6 月．
93）「砂漠の風に誘われて」，書評：工藤庸子『砂漠論』（左右社），ロレンス・ダレル『ジュスティーヌ』（河出書房新社），『UP』430 号，東京大学出版会，2008 年 8 月．
94）「越境する詩人の生涯」，『ちくま』No. 451，2008 年 10 月．
95）「青春の一冊」，『東京大学新聞』，2008 年 10 月 21 日号．
96）「駒場図書館への招待」，『教養学部報』519 号，東京大学教養学部，2009 年 4 月．
97）「よみがえるフーリエ」，『機』No. 208，藤原書店，2009 年 4 月．
98）「文学を研究するということ」，『教養学部報』521 号，東京大学教養学部，2009 年 7 月．
99）「旅の記憶」，『UP』444 号，東京大学出版会，2009 年 10 月．
100）「無能の人」，『観世』第 76 巻第 11 号，檜書店，2009 年 11 月．
101）「「心理」と「身体」」，『Cahier』05，日本フランス語フランス文学会，2010 年 3 月．
102）「駒場図書館案内――教養の杜へ」，『教養学部報』528 号，東京大学教養学部，2010 年 4 月．
103）「身体論の必読文献」，書評：アラン・コルバン他監修『身体の歴史』（藤原書店，2010 年），

『ふらんす』，白水社，2010 年 12 月.
104）「大学教育における「グローバル人材」」，『外交』，vol 10，都市出版，2011 年 11 月.
105）「沈黙をめぐって——ランボーとヴァレリー」，『ヴァレリー集成月報 5』，筑摩書房，2012 年 2 月.
106）「作家の肖像 1　ルネ・デカルト」，『ふらんす』，白水社，2012 年 4 月.
107）「「歴史」と「物語」の間」，書評：長谷川まゆ帆『さしのべる手』（岩波書店，2011 年 7 月），『教養学部報』546 号，東京大学教養学部，2012 年 4 月.
108）「作家の肖像 2　モリエール」，『ふらんす』，白水社，2012 年 5 月.
109）「作家の肖像 3　ジャン＝ジャック・ルソー」，『ふらんす』，白水社，2012 年 6 月.
110）「作家の肖像 4　ドゥニ・ディドロ」，『ふらんす』，白水社，2012 年 7 月.
111）「作家の肖像 5　スタンダール」，『ふらんす』，白水社，2012 年 8 月.
112）「作家の肖像 6　オノレ・ド・バルザック」，『ふらんす』，白水社，2012 年 9 月.
113）「作家の肖像 7　ヴィクトル・ユゴー」，『ふらんす』，白水社，2012 年 10 月.
114）「作家の肖像 8　ジョルジュ・サンド」，『ふらんす』，白水社，2012 年 11 月.
115）「作家の肖像 9　シャルル・ボードレール」，『ふらんす』，白水社，2012 年 7 月.
116）「映画のパリ，小説のパリ」，『キネマ旬報』No. 1626，キネマ旬報社，2012 年 12 月.
117）「作家の肖像 10　アルチュール・ランボー」，『ふらんす』，白水社，2013 年 1 月.
118）「作家の肖像 11　ギヨーム・アポリネール」，『ふらんす』，白水社，2013 年 2 月.
119）「作家の肖像 12　ジャン・コクトー」，『ふらんす』，白水社，2013 年 3 月.
120）「深く迷い，高く跳べ」，『教養学部報』555 号，東京大学教養学部，2013 年 4 月.
121）「小説『レ・ミゼラブル』の魅力」，ミュージカル公演プログラム『新演出版『レ・ミゼラブル』のすべて』，2013 年 5 月.
122）「熱き血潮に触れよ」，『教養学部報』564 号，東京大学教養学部，2014 年 4 月.
123）「東京大学における教養教育の再構築」，『IDE 現代の高等教育』565 号，IDE 大学協会，2014 年 11 月.
124）「アベ・プレヴォの生涯と作品」，新国立劇場プログラム，2015 年 3 月.
125）「普遍性と多様性のはざまで」，『日仏文化』84 号，日仏会館，2015 年 3 月.
126）「『春と修羅』宮沢賢治」，『文学界』7 月号，文藝春秋社，2015 年 6 月.
127）「黄金色の図書室」，『群像』8 月号，講談社，2015 年 8 月.
128）「文部科学大臣の通知と人文社会的教養」，『IDE　現代の高等教育』，IDE 大学協会，2015 年 11 月.
129）「大人になるためのリベラルアーツ（上）」，『日本経済新聞』，2016 年 4 月 25 日.
130）「駒場をあとに　さよならコンサート」，『教養学部報』588 号，東京大学教養学部，2016 年 12 月.

F.　翻訳書（単独訳）

1）　ピエール・ブルデュー，『ディスタンクシオン――社会的判断力批判 I』，新評論，1989 年 2 月，502 p.

2）　ピエール・ブルデュー，『ディスタンクシオン――社会的判断力批判 I, II』（I は上記 1 と同じ），藤原書店，1990 年 4 月，I: 502 p，II: 492 p.（平成 3 年度第 8 回渋沢・クローデル賞本賞）

3）　ロベール・ミュシャンブレッド，『近代人の誕生』，筑摩書房，1992 年 9 月，505 p + 65p.

4）　マリウス・プティパ，『マリウス・プティパ自伝』，新書館，1993 年 7 月，233 p.

5）　ピエール・ブルデュー，『芸術の規則 I』，藤原書店，1995 年 2 月，344 p.

6）　ピエール・ブルデュー，『芸術の規則 II』，藤原書店，1996 年 1 月，312 p.

7）　ロートレアモン，『ロートレアモン　イジドール・デュカス全集』，筑摩書房，2001 年 3 月，652 p + 20p（翻訳 pp. 3–333，註解 pp. 335–578，解説 pp. 579–648，書誌・年表 pp. i–xx）．（平成 13 年度第 37 回日本翻訳出版文化賞，平成 14 年度第 9 回日仏翻訳文学賞）

8）　ロートレアモン，『ロートレアモン　イジドール・デュカス全集』（上記 7 の注解短縮版），ちくま文庫，2005 年 3 月，503 p.

9）　サン＝テグジュペリ，『星の王子さま』，ちくま文庫，2005 年 12 月，163 p.

10）　ロラン・バルト，『小説の準備』，筑摩書房，2006 年 10 月，610 p.

G.　共訳書・監訳書

1）　ジャン＝ピエール・パストリ，『パトリック・デュポン――エトワールの情熱』，渡辺守章監訳，新書館，1986 年 4 月，135 p.（全体の翻訳初稿を担当）

2）　ジェラール・マノニ／ピエール・ジュオー，『パリ・オペラ座のエトワール』，石井啓子と共訳，新書館，1986 年 9 月，259 p.（約 3 分の 1 の翻訳を担当）

3）　ジャックリーヌ・レッシャーヴ，『カニングハム　動き・リズム・空間』，石井啓子・朝比奈美知子と共訳，新書館，1987 年 8 月，266 p.（約 3 分の 1 の翻訳を担当）

4）　アンヌ・デルベ，『カミーユ・クローデル』，渡辺守章・渡辺清子と共訳，文藝春秋，1989 年 9 月，581 p.（約 3 分の 2 の翻訳初稿を担当）

5）　ピエール・ブルデュー，『遺産相続者たち』（監訳），藤原書店，1997 年 1 月，229 p.

6）　アラン・コルバン，『人喰いの村』，石井啓子との共訳，藤原書店，1997 年 5 月，261 p.（約 2 分の 1 の翻訳，および解説を担当）

7）　アベ・プレヴォ，『マノン』，石井啓子と共訳，新書館，1998 年 1 月，330 p.（約 2 分の 1 の翻訳，および解説を担当）

8）　ミシェル・フーコー，『ミシェル・フーコー思考集成 VIII』，増田一夫・小林康夫編，筑摩書房，2001 年 9 月，461 p.（「権力の網の目」の翻訳を担当，pp. 401–423）

9）　『ピエール・ブルデュー　1930–2002』，加藤晴久編，藤原書店，2002 年 6 月，305 p.（「ブル

デュー，悲しみ」他 5 編の翻訳を担当，pp. 230–252）

10） ピエール・ブルデュー，『実践理性』，加藤晴久・三浦信孝・安田尚との共訳，藤原書店，2007 年 10 月，311 p.（「社会空間と象徴空間」（pp. 11–34）及び「作品科学のために」（pp. 71–100）の翻訳を担当）

H. 論文翻訳

1） アントナン・アルトー，「思考の不能性」，清水徹と共訳，『ユリイカ』特集アントナン・アルトー，青土社，1988 年 2 月，pp. 56–67.

2） トマ・フェランツィ，「趣味と階級――『ディスタンクシオン』について」，『新評論』No. 62，1988 年 10 月，pp. 19–21.

3） ディディエ・エリボン，「美的判断の社会学」，『新評論』No. 63，1988 年 11 月，pp. 22–23.

4） ピエール・ブルデュー，「『感情教育』論（一）――作品の社会空間」，『文学』特集フロベール，岩波書店，1988 年 12 月，pp. 23–41.

5） ピエール・ブルデュー，「理論的可能性の空間における場の理論」，『現代思想』，青土社，1990 年 3 月，pp. 204–219.

6） ピエール・ブルデュー，「差別化の構造――日本で『ディスタンクシオン』を読む」，『ピエール・ブルデュー』，加藤晴久編，藤原書店，1990 年 11 月，pp. 57–82.

7） ピエール・ブルデュー，「文学生産と「場」の理論」，『ピエール・ブルデュー』，加藤晴久編，藤原書店，1990 年 11 月，pp. 133–167.（上記 5 の改題再録）

7） ピエール・ブルデュー，今村仁司，廣松渉，「ハビトゥス・戦略・権力」（鼎談），『ピエール・ブルデュー』，加藤晴久編，藤原書店，1990 年 11 月，pp. 169–204.

8） ミシェル・セール，「第三教養人」，『ルプレザンタシオン』2 号，筑摩書房，1991 年 10 月，pp. 147–155.

9） ディディエ・エリボン，「「作品科学」の誕生」，『機』No. 56，藤原書店，1996 年 1 月，pp. 1–5.

10） ピエール・ブルデュー，「テレビはテレビを批判できるか」，『世界』7 月号，岩波書店，1996 年 6 月，pp. 167–174.

11） ル・ロワ・ラデュリ，「流血と浄化」，『機』No. 72，藤原書店，1997 年 6 月，pp. 10–11.

12） ピエール・ブルデュー，「ネオ・リベラリズムの本質」，『世界』6 月号，岩波書店，1998 年 5 月，pp. 53–59.

13） ヴァンサン・ドゥニ，「フランスにおける生誕二百年行事」，『機』No. 100，藤原書店，2000 年 1 月，pp. 10–13.

14） ジャック・デリダ，「ブルデューの訃報に接して」，『機』No. 125，藤原書店，2002 年 4 月.

15） ニコス・パナヨトプロス，「ブルデュー社会学と国際的象徴支配」，『環』12 号，藤原書店，2003 年 1 月，pp. 122–134.

I.　教科書・参考書

1）『時事フランス語の入門』，白水社，1988 年 12 月，237 p.

2）『時事フランス語を読む』，白水社，1991 年 4 月，62 p.

3）『フランス文法要説』，朝日出版社，1992 年 4 月，76 p.

4）『21 世紀への時事フランス語』，白水社，2001 年 3 月，49 p.

5）『Passages』，共編，東京大学出版会，2001 年 9 月，164 p.

6）『新フランス文法要説』，朝日出版社，2005 年 4 月，76 p.

7）『メディアのフランス語』，白水社，2005 年 6 月，172 p.

8）『Promenades』，5–texte2 を分担執筆，東京大学出版会，2006 年 10 月，134 p.

9）『フランス文法要説 第 3 版』，朝日出版社，2016 年 1 月，82 p.

J.　辞典・事典

1）『ロワイヤル仏和中辞典』，田村毅他 10 名と共編，旺文社，1985 年 1 月，2136 p.

2）『プチ・ロワイヤル仏和辞典』，倉方秀憲他 10 名と共編，旺文社，1986 年 1 月，1592 p.

3）『ロワイヤル・ポッシュ仏和・和仏小辞典』，田村毅他 10 名と共編，旺文社，1988 年 3 月，856 p.

4）『プチ・ロワイヤル仏和辞典改訂新版』，倉方秀憲他 10 名と共編，旺文社，1996 年 1 月，1680 p.

5）『事典現代のフランス』増補版，大修館，1997 年 7 月，1008 p.（別冊の「市民生活」の項目執筆）

6）『世界文学大事典』，全 6 巻，集英社，1997 年 7 月，平均 950 p.（「ロートレアモン」他 2 項目執筆）

7）『社会学文献事典』，弘文堂，1998 年 2 月，912 p.（『ディスタンクシオン』の項目執筆）

8）『エンカルタ』，「ピエール・ブルデュー」の項目執筆，マイクロソフト，2000 年 4 月.

9）『ロワイヤル仏和中辞典第 2 版』，田村毅他 10 名と共編，旺文社，2005 年 2 月，2229 p.

10）『ビジュアル教養大事典』，日経ナショナルジオグラフィック社，2014 年 12 月，512 p.（「文学」の項目監修）

K.　学会・シンポジウム発表

1）「『マルドロールの歌』における発話の構造」，日本フランス語フランス文学会秋季大会，於福岡大学，1980 年 10 月.

2）「「マルドロールの第四の歌」におけるテクストの多層化――第 2 ストロフを中心に」，日本フランス語フランス文学会春季大会，於立教大学，1986 年 6 月.

3）« La Structure de l'énonciation dans *Les Chants de Maldoror* de Lautréamont », *Malédiction ou Révolution poétique : Lautréamont / Rimbaud*, Colloque de Cerisy-la-Salle, 15–22 juillet 1989.

4) « Lautréamont lu par les Japonais », *Lautréamont et le lecteur*, Colloque Lautréamont, Université de Montréal, 5–7 octobre 1998.

5) 「名は体を表す」，シンポジウム「わたしたちはどうして文学を愛するのか――瀕死の文学を救うために」，於帝塚山学院大学，2001 年 3 月 5 日．

6) 「速度と身体――漱石『彼岸過迄』を中心に」，日本比較文学会東京支部シンポジウム「都市化する身体――1910 年代文学から」，於日本女子大学，2001 年 10 月 27 日．

7) « La poétique de la verticalité chez Lautréamont », Colloque international Lautréamont 2002, *Lautréamont――du romantisme à la modernité*, à l'Université de Tokyo, Campus de Komaba, le 6 octobre 2002.

8) « Le Corps de Maldoror », *La Littérature Maldoror*, 7e Colloque Lautréamont, Université de Liège et Université de Bruxelles, 4–6 octobre 2004.

9) 「文学研究と地域文化研究」，東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻シンポジウム「「地域知」の探求」，於東京大学駒場キャンパス，2007 年 12 月 15 日．

10) 「心理と身体」，日本フランス語フランス文学会 2009 年度秋季大会ワークショップ「身体論の地平」，於熊本大学，2009 年 11 月 8 日．

11) 「『感情教育』のパリと『マルドロールの歌』のパリ――ブルデューを媒介項として」，日本フランス語フランス文学会 2012 年度春季大会ワークショップ「文学とその〈外部〉」，於東京大学本郷キャンパス，2012 年 6 月 3 日．

12) 「これまでの教養教育とこれからの駒場の教養教育が目指すもの」，東京大学教養学部付属教養教育高度化機構シンポジウム「教養教育の高度化を目指した実践と展望」基調講演，於東京大学駒場キャンパス，21KOMCEE レクチャーホール，2013 年 3 月 11 日．

13) 「初年次教育とリベラルアーツ」，東京大学教養学部付属教養教育高度化機構シンポジウム基調講演，於東京大学教養学部，2014 年 3 月 12 日．

14) 「リベラルアーツとしての地域文化研究」，東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻シンポジウム「今，人文・社会科学に何ができるか」，於東京大学教養学部，2016 年 6 月 25 日．

L.　講演・講義

1) 「パリの記憶を探る（1）」，朝日カルチャーセンター，1998 年 4 月～6 月，計 5 回．

2) 「パリの記憶を探る（2）」，朝日カルチャーセンター，1999 年 4 月～6 月，計 4 回．

3) 「ブルデュー社会学と日本」，日仏会館講演，1999 年 6 月 21 日．

4) 「ピエール・ブルデューの社会学」，放送大学特別講義，2003 年度．

5) 「野間宏と〈顔〉――『暗い絵』を中心に」，「野間宏の会」第 12 回講演，於アルカディア市谷，2004 年 5 月 29 日．

6) 「『星の王子さま』と外国語の世界――文化の三角測量」，『高校生のための金曜特別講座』，

於駒場 18 号館ホール，2007 年 4 月 13 日．

7）「パリ：都市の歴史と記憶」，かわさき市民アカデミー，エクセレント I コース『世界を旅する③フランス・ツアー』第 3 回，於川崎市生涯学習プラザ，2010 年 4 月 28 日．

9）「フランス文学の流れ：19 世紀を中心に」，かわさき市民アカデミー，エクセレント I コース『世界を旅する③フランス・ツアー』第 4 回，於川崎市生涯学習プラザ，2010 年 5 月 12 日．

10）「フランス文学の流れ：19 世紀を中心に」，かわさき市民アカデミー，エクセレント I コース『世界を旅する③フランス・ツアー』第 6 回，於川崎市生涯学習プラザ，2010 年 5 月 26 日．

11）「外国語の不思議・日本語の不思議」，『高校生のための金曜特別講座』，於東京大学教養学部 18 号館ホール，2015 年 7 月 17 日．

12）「2015 年度 4 ターム制の全学導入と教学運営の実際――総合的教育改革の実装段階を迎えて」，地域科学研究会セミナー講演，於中央大学駿河台記念館，2015 年 7 月 24 日．

13）「深く迷い，高く跳べ」，『親と子どものためのきらめき“夢”トーク』，和歌山県，於ルミエール華月殿，2015 年 11 月 6 日．

14）「人文社会科学は何の役に立つか」，『東京大学基金寄付者の集い』講演，於東京大学安田講堂，2016 年 6 月 24 日．

15）「東京大学の教育が目指すもの」，全国公立高等学校進路指導研究会講演，於ホテル東京ガーデンパレス，2016 年 11 月 12 日．

16）「外国留学とリベラルアーツ――私自身の体験を通して――」，佐藤陽国際奨学財団講演，於一橋講堂，2016 年 12 月 17 日．

M. 対談・座談会・インタヴュー

1）「論説空間――ピエール・ブルデューと文学」，『東京大学新聞』，1995 年 6 月 13 日．

2）「〈文学場〉の射程――〈場〉の理論は何をもたらすか」，芳川泰久との対談，『図書新聞』2254 号，1995 年 7 月 15 日．

3）「ブランドと日本人」，アガタ・モレシャンとの対談，『講談社ニュース』，1996 年 11 月．

4）「ブルデューと日本の大学（上）」，宮島喬，石崎晴己との鼎談，『機』No. 67，藤原書店，1997 年 1 月．

5）「ブルデューと日本の大学（下）」，宮島喬，石崎晴己との鼎談，『機』No. 68，藤原書店，1997 年 2 月．

6）「〈読む〉ことのすすめ」，柏木隆雄との対談，『文学』1・2 月号，岩波書店，2004 年 1 月，pp. 133–147.

7）「来たるべき読者への呼びかけ　変身／殺害／秘密」，小林康夫・守中高明・立花英裕との座談会，『現代詩手帖 2003　March』，思潮社，2003 年 3 月，pp. 10–27.

8）「成熟社会のライフデザイン」，池田理代子との対談，『交流』No. 62，中部電力，2004 年 6 月，pp. 3–8.
9）『教養のためのブックガイド』出版記念対談，小林康夫との対談，池袋ジュンク堂，2005 年 4 月 9 日.
10）「「意味」に抗った含羞の人」，松浦寿輝・石川美子との鼎談，『文学界』1 月号，2005 年 12 月，pp. 156–175.
11）「『毒書案内』出版記念講演会」，野崎歓との対談，於三省堂本店，2006 年 1 月 13 日.
12）「二十一世紀の教養のあり方」，駒場還暦座談会，『教養学部報』523 号，東京大学教養学部，2009 年 10 月.
13）「学部長に聞く　教育改革」，『東京大学新聞』，2014 年 6 月.
14）「東大でも「教養教育」見直し」，『産経新聞』，2014 年 6 月.
15）「「理系」から見た「文系」，「文系」から見た「理系」」，梶田隆章との対談，『淡青』33 号，2016 年 9 月，pp. 4–7.
16）「いまこそ読みたい「この 2 冊」」，インタヴュー書評，『サライ』，2016 年 9 月.
17）「「他なるもの」と出会い，自分を開く」，森山至貴によるインタヴュー，『ヴァン』vol. 32，教育芸術社，2016 年 10 月，pp. 3–7.
18）「思考を鍛える教養――『大人になるためのリベラルアーツ』を刊行して」，藤垣裕子との対談，『UP』529 号，2016 年 11 月，pp. 1–13.

N.　受賞

1）第 8 回渋沢・クローデル賞本賞，ピエール・ブルデュー著『ディスタンクシオン』の翻訳，藤原書店，1991 年 6 月.
2）第 37 回日本翻訳出版文化賞，ロートレアモン著『ロートレアモン／イジドール・デュカス全集』の翻訳，筑摩書房，2001 年 9 月.
3）第 9 回日仏翻訳文学賞，ロートレアモン著『ロートレアモン／イジドール・デュカス全集』の翻訳，筑摩書房，2002 年 5 月.
4）第 59 回芸術選奨文部科学大臣賞，『ロートレアモン　越境と創造』，筑摩書房，2009 年 3 月 .